

日本消化器がん検診学会近畿支部

第 34 回 保健衛生研修会実施報告書

2024 年度の第 34 回保健衛生研修会は 2024 年 8 月 3 日に開催されました、第 53 回近畿地方会（神戸市：神戸国際会議場）において、2024 年度の医師研修会との合同開催という形で行いました。

研修会は、関西労働保健協会千里LC健診センターの渡邊能行先生を講師にお迎えし、「歴史に学ぶがん検診-老人保健法の時代からがん対策基本法・健康増進法の時代へ-」をテーマにご講演いただきました。

老人保健法に基づく事業として昭和 58 年に胃がん検診、子宮がん検診が開始されてから、保健事業として全国で行われるようになったがん検診が、平成 10 年には一般財源化されたことで、平成 19 年まで、法律に基づかない市町村事業として整理されたこと、平成 20 年以降は「健康増進法」に基づく健康増進事業（市区町村の努力義務）として実施されていることなど、40 年にわたるがん検診の歴史を振り返ることができるご講演でした。また、渡邊先生ご自身も作成に携われた「有効性評価に基づく大腸がん検診ガイドライン」についてのお話を交え、有効性の認められた検診実施の重要性や職域におけるがん検診の課題など広くご講演いただきました。

公衆衛生の立場から、がん検診の歩みについて講義いただき、着実に進んでいるわが国のがん検診の状況と今後の課題を理解することができました。精度の高いがん検診となるよう、精度管理に努めていくことが重要であることを改めて感じました。

自治体へのご案内が遅れたこともあり、参加人数が 21 名と少なかったことが反省点と感じています。次年度の研修会にはより多くの方に参加いただき、よりよい研修会となるよう保健衛生研修委員全員で、取り組んでいきたいと思います。

（文責 保健衛生委員委員長 池宮城賀恵子）